

令和3年度 第1回 境港市環境審議会 議事録(要旨)

□ 日時：令和3年7月27日(火) 午後2時～午後3時30分

□ 場所：境港商工会議所 大ホール

□ 出席者

別紙名簿のとおり

(事務局)

永井卓真(市民生活部長)

足立晴夫(環境衛生課長) 高橋弘志(環境衛生課脱炭素推進係長)

□ 内容

1 開会

2 市長あいさつ

・開会にあたり、伊達市長があいさつ

3 委員の委嘱及び紹介

・委嘱状を机上配布

・各委員の自己紹介

4 議事

(1) 審議会の会長及び副会長の選出について

事務局の提案により、会長に伊達委員、副会長に山本委員が就任した。

(2) 「境港市環境基本計画」諮問

「境港市環境基本計画」の策定について、伊達市長から環境審議会に諮問した。

(3) 「境港市環境基本計画」について

新たに策定する「境港市環境基本計画」について、事務局が資料に従って説明した。

(4) 質疑応答

(会長)

質問や意見などありましたらお願いできますでしょうか。

かなり、ざっくりとした話なので、質問ということもなかなか難しいと思いますが、何でも構わないので、気になった点等がありましたら、お願いします。

(委員)

今回、策定される環境基本計画は、その計画期間が令和4年度から令和8年度の5年間となっているが、近隣の米子市は10年間、鳥取県は11年となっている。今回境港市が策定する計画は5年間と短くなっているが、その理由は何か。

(事務局)

おっしゃるとおり、概ね10年という自治体が多いと思っております。境港市の前の計画は10年としていましたが、近年、環境に関する問題として地球温暖化を中心にして短期間に目まぐるしく変化している状況から、今回は5年という計画期間にしました。こうした社会状況の変化にいち早く対応していけるように、5年経ったらまた新たなものを見直したいと考えております。ただし、5年の間にも、何か変化があれば変更していきたいと考えております。

(委員)

パブリックコメントについて、広く市民から意見をもらうためにどのような方策を考えておられるのか。

(事務局)

最終的にパブリックコメントを実施しますが、やり方によってはあまり意見が集まらないということもあります。

市民の皆さんに対して、重要な計画を作っているということを示報やインターネット、ホームページなどを活用して周知し、なるべく多くの方から関心を持っていただけるよう、直接お声かけもしながら、意見をいただきたいと考えております。

(会長)

骨子の内容から、それぞれ具体的な内容に落とし込んでいくのはどの段階か。

懇談会だと、1回目からかなり具体的な内容が出ているが、審議会ではどのようなスケジュール感で進めていくのか教えていただきたい。

(事務局)

次回の審議会は、10月に開催する予定にしており、この第2回の会では、原案についての審議を行う予定としております。第2回の会議では、ある程度計画の形となったものを提出させていただいて、具体的にその内容についてご審議いただきたいと考えております。

(会長)

過去に公務員としてリサイクル系の担当をしており、当時からあまり変わっていないという印象があります。

15年くらい前にリサイクルブームが来て、いろんな相談案件もあったが、結局それが伝わらずに繰り返されているような感じで、そこにSDGsという大きい目標ができて、それに向かってまた動き出したという感じがしている。

当時の状況からそんなには変わってはいないし、目標も新しい考え方を取り入れるが、結局は当時のものを環境意識を高めて頑張ろうということなのかなと思っています。

具体例をどうするかというのはとても難しいとは思う。

当時もリサイクルを活発にするんだということだったが、ごみが原料だからごみを増やすのかといった疑問が出てきたりした話がありました。企業が儲かるということは、ごみを増やさなければならないが、でもそれは違いうだろう。じゃあゴールはどうすればいいんだと当時みんな話をしていました。

環境系をターゲットにする時には常にそういう問題がついてきていた。あるところを頑張ろうとするとあるところに負荷がかかって、元も子もないことをやっているのではということになりかねず、結論はなかなか出せずにいる。

私も学校とか、研究ばかりしているので、そういった目線にしかたない部分がありますので、違う目線でいろいろご意見いただけるという計画が作れると思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

骨子の中で、基本目標というものを定めていくようになると思うが、これは数値目標的なものを含めてのものになるのか。計画期間が5年と非常に短いので、数値目標としてフォローアップしていくことは非常に難しいのではないかと。

(事務局)

この短期間の中でも、必要なものを絞って、皆さんに分かりやすいような数値目標を立てられるのであればこの計画に入れていきたいと考えております。

(委員)

米子市の審議会の環境基本計画に関わらせてもらっており、完成時に、若い人達に見てもらいたいというのが多くの方の意見でした。今回境港市さんが作る計画も最終的に若い人たちにも見てもらえるようになるといいと思って

います。

この計画を作る段階で、パブリックコメント等を集める際に、若い人達に意見を求めるようなことができないか。
(事務局)

検討させていただきます。

(会長)

今現在、境港市で環境学習みたいな力を入れてやっているようなことがありますか。

(事務局)

今年度から、新たな取り組みとして、市内の小学 6 年生に環境学習を実施することにしております。まだ計画段階ではありますが、先ほどご意見があったような若い方の意見を聞くといったこともその中でできたらと思いますし、この学習は今後も継続をしていきたいと考えております。

(委員)

この会の在り方についての質問ですが、今年度は環境基本計画を作ることが大きな目標ですが、来年度以降、1 年ごとでもチェックして次のアクションに繋げるといった計画はあるのか。

(事務局)

環境審議会は、基本的に常に設置しておくことが必要であり、今回は環境基本計画がテーマであるが、これに限らず、市の環境に関わる重大な案件があった場合にこの会議を開催させていただくことを考えております。

さらに、環境基本計画のPDCA サイクルもこの会の中で、例えば、年に1回開催をさせていただいて、いろいろとご報告をさせていただくというように考えております。

また、環境白書は毎年発行するものであり、直近の市の状況を皆さんにご報告させていただくことを考えております。

(会長)

環境基本計画では、境港市は後発なので、他市の良いところはどんどん取り入れていけば良いと思います。

他市の計画の中で、良いものがあればご紹介いただければ。

(委員)

他市では、意見が活発に出て、思ったことをどんどん言えるような雰囲気だったので、雰囲気作りが大事だと思います。合っているか合っていないかは別として、どんどん意見を出すことが大事だなということを感じました。

作って終わりじゃなくて、そこから先を念頭に置いて作っていたので、境港市の計画でも、当然取り入れるべきと私も思っています。

(委員)

環境問題では、境港市だけで完結する問題というのは非常に少ないと思う。近隣の市と連携するといった取り組みも必要になってくるのではないかと。

(事務局)

計画は各市がそれぞれ作っていますが、中海・宍道湖・大山圏域市長会というものがあり、境港市と米子市、松江市、安来市、出雲市が一緒になって、広域のさまざまな施策や課題に取り組んでおります。その中に環境部門もあって、各市が集まり、各市にまたがる問題を一緒に解決していこうという体制になっております。

(会長)

中海周辺でごみを見つけたりするが、境港市周辺に流れ着くものは、境港市から出ているものなのか、周辺から来ているものなのか。

(事務局)

はっきりしたデータはないが、弓ヶ浜の海岸などを清掃すると、外国から来ているようなごみがたくさん流れ着いており、他所から来ているごみが非常にたくさんあるという認識をしています。

ただし、今年度から川にネットを設置して海に出る前にごみを回収する実験をしていますが、コンビニの袋や弁当ガラなどの新しいごみもたくさん回収されていることから、他所だけではなく市内からもごみが出ていると思われるので、それぞれに対策が必要と考えております。

(会長)

そうしましたら、ご質問いただいていない委員の方からご意見をいただいてもよろしいでしょうか。

(委員)

歩いていると、畑などにごみを見かけることがあって、仲間と拾って歩いたらいいねとか言いながらも実行しにくいところがあって、大人がこんなことでは子供もなかなかできない。一人一人が意識を高めてごみを少しでも拾ってごみの少ないまちにしたいと思います。

(会長)

環境は小さいころからの学習が重要だと思います。学生達に環境を汚さないにはどうしたらいいですかと聞かれたときは、水辺を散歩するのが一番と答えています。散歩をしてきれいだなと思えるのが基本で、そうした心さえあれば、ごみがあったら嫌だなという気持ちが出てくるので、最初の入り口として、散歩でもして釣りでもしたら良いのではと感じています。意識づけの問題だと思うので、捨てないでくださいと言うよりも、環境に触れてくださいと言うことが大事だと思います。

(委員)

自分は海の仕事に携わっており、海のことが一番気になるが、外国からのごみの対策というのは難しい問題なのかなと思う。海の中には、目に見えない水中のごみもたくさんあって、それは大きな問題になってしまうので意見としてどういったことができるのか言えないが、そういったことも勉強しながら皆さんと意見を交わしていければと思います。

(会長)

最近では日本海に出てマイクロプラスチックの調査をしているが、太平洋や瀬戸内に比べればかなりきれい。魚を解剖してみても、中からプラスチックが絶対出てくるといった環境にはまだなっていない。

日本海が相対的にはプラスチックは少ないといっても無いわけではないので、減らすことは重要。ただし、いくら内側から生産量を減らしても外から流れてきたらきりがないので、適宜やるしかない。

(委員)

汚れるのもきれいになるのも人の影響が大きい。意識を変えることがすごく重要。水辺を歩いてきれいと感じ、だからきれいになろうと思えるような意識改革が大事だと思うので、環境教育がとても重要だと思う。今回の基本計画でも、意識を変えられるような何かを載せられればと思う。

(委員)

私の住む地区では、県と契約してサイクリングロードの清掃をやっている。他の地区とも連携しながらやっているが、子供と一緒にやっている。見た目ではあまりごみは無いように見えたが、実際は非常にたくさんのごみが集まった。この秋にももう一回やりたいと思っているが、こうした活動を継続していけばごみを減らそうという意識に変わっていくのではと思う。

(委員)

骨子を見ると、企業がやること、行政がやること、市民がやること、というように分かれると思う。市民の方は脱炭素についてイメージでは分かるのかもしれないけれど、具体的に何ができるのか、それをする中で自分にどういったいいことがあるのかといことがよく分からない部分もあると思う。

計画のフォーマットが決まっていないのならば、例えば、他所の取り組み事例や個人だとこういうことができる、こういうことをやりましょう。企業はここをやりましょう。行政はこういうことをやりましょう。といったように分かりやすくイメージしやすくできないか。具体的なイメージが湧くように、若い人に見てもらい関心を持ってもらうためにも、実際に何ができるといったところを分かりやすくできないか。

過去に水産関係のPRで下敷きを作って小学生に配ったことがあった。そこで家庭でも話題になって広まっていけばという思いがあった。お金がかかるが、ポスターを貼るよりも実用的なものを配ってみる方が効果的ではないか。

(事務局)

おっしゃる通り、みなさんに見ていただくという事が重要。今回の計画は、そういった視点を取り入れて市民の皆さんに手に取って読んでいただけるような工夫をしてみたい。

(会長)

費用対効果は重要。いくら家庭に太陽光発電を取り入れてと言われても、少ない補助金ではやらない。多人数に少ない補助金を出すよりも、人数が少なくても金額を多くした方が応募は多くなると思う。同じ金額でも、どういう形で払うか工夫することによって、色々なことが変えられると思う。

(委員)

公園や港の駐車場を管理しているが、ごみが必ず残されている。ごみを無くすにはどうしたらいいのかと常に悩んでいる。市民というよりは、来場者のごみを出している。境港市で取り組む計画ではあるが、観光客を含めてもっと広い範囲で意識改革をできるようにできたら良い。

(会長)

休日に釣りに行くが、県外の方がごみを側溝の下に入れてのを見たことがある。費用対効果から考えると、ごみを処分する費用と、監視する人を雇うのではどっちが安いかということになる。地元の人であれば教育でなんとかできるが、外からの人に対しては難しい。

(委員)

県外からの釣り客がとても多いが、いらなくなった餌や道具をきちんと処分しているのか分からない。

保安部の船がある所や、夢みなとタワーの周辺にも釣り客が多い。たくさん人が来てくれるのは良いが、ごみの処理をきちんとできていない人もたくさんいると思う。パトロールをしないとますます増えるのでないか。

また、近所に、空き家を改造して民泊に利用している家がある。壊すのではなくて、改造して県外の方でも安心して泊ってもらえるようにすれば空き家対策にもなる。

(事務局)

一斉清掃などで海岸を掃除すると釣り関係のごみが多いというのは感じている。釣り客については、啓発の仕方が何かあると思うので、釣り客に絞って啓発をしていくのも一つの方法だと思います。

空き家については、広い意味で環境に含まれると思いますが、計画の中で具体的に取り上げるかどうかは別として、違う部門で対策を行っているので、そちらにご意見を伝えさせていただきたいと思います。

(委員)

釣り客は、啓発の貼り紙をしても見ない方がほとんどだと思う。何かを配るのも不可能だと思う。ごみ箱を置いたらなんでも捨てられてしまって難しい。釣り人としての立場から言うと、もうちょっと釣りが整備されていると釣り人はもっと来ると思う。環境問題も付いてきてしまうが、どこで折り合いをつけるか。

海の中の清掃はどうされているのか。相当数のごみが沈んでいると思うが。

(事務局)

海の中については、市では清掃をやっていません。海岸際の海底ごみの清掃をやっているといったことは聞いてい

ない。

(会長)

皆さんの中で誤解としてあると思うのが、マイクロプラスチックが分解しないということは間違い。プラスチックは分解されるのに時間がかかるというのが問題。小さくなればなるほど、分解しやすくなって、最後は微生物が分解してくれる。ただ、それには40年とか50年という時間がかかってしまうので、問題となっている。

出るマイクロプラスチックの総量が少ないのであれば、ある程度時間が解決してくれるので、散歩の際に細かいプラスチックを拾うよりも、大きいプラスチックを拾ってほしい。

子供たちと砂浜でマイクロプラスチックを延々と拾うよりは、目についた大きいごみを拾うほうが良い。

(委員)

境港市では軟質プラスチックを分別して収集するようになり、自分の家でも分けるようになったが、一体何のために分けるのかというのをこれまで考えていなかった。今回環境白書を読んで、固形燃料になってリサイクルされることを初めて知った。何のためにやるのかということをもっと意識できるようになると、分別をしっかりとやろうかなという気持ちになると思う。

また、職場では市外の方も一緒に勤務しているが、分別の仕方が自治体によって違うので、事業所として軟質プラスチックの分別などを浸透させるのが難しいところがある。各家庭だけではなくて、事業所でどれだけ分別が進んでいるのか見ていく必要があると感じた。

(事務局)

ごみ分別につきましては市民の方にご協力いただいているところですが、分別したごみがどうなっていくのかという啓発が不足しているのは、市の責任です。これまであまりそういった内容について啓発をしてこなかった面がありますので、今後、分かりやすくしていきたいと思います。

事業所のごみにつきましては、ごみの減量も含めて分別の方法などを直接説明させていただくなど、お願いしていく必要があると思っております。事業所のごみの占める割合もかなり高いものがあり、いかに減量化していくかということが必要となってまいりますので、今後力を入れていきたいと思っております。

(委員)

意識を変えていくことがすごく大切だと私も思います。私は鳥取環境学習アドバイザーとして10年以上やってきたところですが、個人の意識に頼るのも限界があるとも感じます。あるところまでは意識を改革できることもたくさんあるが、全員がそういう意識を持てるかということに限界を感じたりしています。

そこで、システムによって人を動かしていくこともできるのだと思います。昨年レジ袋が有料化になって、私もマイバッグを持参するようになりました。検証やフィードバックも必要だと思うが、こうした仕組みを変えていくことも一つの方法だと思います。難しいことだとは思いますが、市としてもそういう仕組みを作るという点も考えてみればいいのではないのでしょうか。

例えば、学校などではシステムによって変えていくことができるのではないのでしょうか。そうすると、成功例であるとか自分に何ができるかといった具体例が見えてくるのではないのでしょうか。こうした成功例を集めてみるのも一つの大事な視点ではないかと思えます。

(会長)

米子高専の例としては、過去に自分が学生組織の担当をしたときに、ベルマークを集めようという話になったが、普通に小学生のお子さんがある家庭のように集めようとする費用対効果的に見合わなかった。ベルマークを集めるという活動は、かなりの労力を使うことになるため、それは違うだろうということになった。

最終的には、使用済みトナーやインクカートリッジをメーカーに送ることによってベルマークが特典としてもらえるこ

とが分かり、事務サイドにも掛け合っ集めることにした。文化祭のチラシにも、家庭で出るインクカートリッジを持ってきてもらうよう案内を載せたりもして、トナーに特化したベルマークを集める仕組みを作り、今のところうまくやれている。

また、最近では家庭で出る段ボールなどを集めるステーションが増えて、廃品回収に出さずにステーションに持っていく方が増えていると思います。お金が出るとなったらやはり皆がそこに持ってくる。お金が発生しない状況でも皆が持ってくるのが理想だとは思いますが、仕組みづくりがうまくできさえすれば人は動く。そういった仕組みができればいいなと思います。

(会長)

最後に事務局の方からお願いします。

(事務局)

本当に多くのご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

いただきました意見の中でいくつかお話をさせていただきます。

この計画の今後の進め方ですが、今日を含めて4回の会議を予定しております。次回の予定は10月としております。この間に市内事業者の方へのアンケートを近々送付いたしまして、お盆明け頃を目途にお答えをいただく予定にしております。そういったものの取りまとめや8月から9月にかけて市内の事業者の方を中心としております懇談会の方をあと2回開催する予定としております。ここでも様々な意見をいただけるものと思っておりますので、こういったものを含めて次回皆様方に素案としてお示しできるような形にしてお集まりいただきたい。そこで、議論が本格化していくものとイメージしております。

事務局としてはそういった作業を進めてまいりたいと考えております。

また、先ほど意識の事、仕組みづくりの事についてのご意見をいただきました。この点につきましては、懇談会でもご意見を頂戴いたしまして、かなり我々も気にしております。この基本計画を作り上げました際には、やはりできるだけ多くの人にご覧いただきたい、関心をもっていただきたい。そのためには、パブリックコメントの中でも多くの幅広い世代の方々からご意見をいただきたいと持っております。

例えば、海洋ごみを例にしてみれば、もともと海にはそういったごみはありえないところが、一部の人間の無責任な行動によって、今こういった状況になっている。そこに、どうやって意識の改革をしていくのか。ポイっと捨てたものがどう流れ着いて、それがどんな影響を及ぼすのか。環境教育の一つのポイントが各ご家庭であるのだろうと思っております。

残念ながらコロナで中止になったのですが、今月30日には中海・宍道湖・大山圏域の小学校上級生を対象とした環境学習の予定をしておりました。20名の定員のところに3倍以上の応募があり、抽選により選ばせていただいたという状況だったのですが、残念ながら現在の西部の感染状況の中で開催するのが困難ということで、中止の判断をさせていただきました。こうしたものは今後も継続していきたいと思っております。

11月の上旬ごろには、米子市と連携して美保湾の清掃に取り組む予定としており、そこでどんなごみがあるのか実際に目にさせていただき、その後に環境に対する講習やリユースの食器を使ってカニ汁のふるまいといったことも行う予定としております。この事業は1年2年で終わることなく、米子市と連携して継続してやっていくこととしております。

こうした取り組みがようやくスタートしたところでございます。こうしたことを重ねていながら、できるだけ多くの人にこの環境問題に関心を持っていただいて、自分ごととして考えていただけるよう取り組みを進めていきたいと思っております。

本日は皆様方に多くの意見をいただいて、本当に感謝しております。どうしても我々は行政の凝り固まった意見になりがちなものですから、どうやったら読みやすい計画になるか、堅苦しくなくざっくばらんに意見が飛び交うような

会議を行っていただきたいと思っております。

皆様方をお願いすることはかりでございますけれども、今後もお力添えを賜りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(5) その他

・事務局が、次回会議を10月に予定している旨を連絡した。

5 閉会